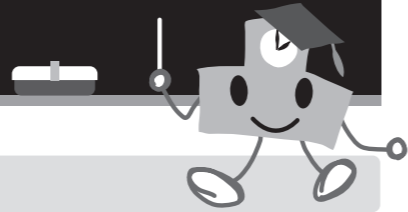


# 小学校の事例 手稲区 星置東小学校

## キッズISOから独自プロジェクト。川について調べ、「環境パスポート」を取得。

地域環境を生かし、川を題材に環境学習。自ら関心をもち取組むためキッズISOを使いながら独自プロジェクトへ。



### 内容 川に親しみ 発見し 考える

本校では地域の川を題材とし、水に関する「川プロジェクト」に取り組んでいる。川は歩いて20～30分で行ける場所にあり、普段の生活の中でも家族と一緒に行く場所である。魚やカニをはじめ、さまざまな水辺の生物が生息している。

子供たちは、まず川で遊び、生き物とふれあい、石や植物を採集する。自然体験をとおして、興味・関心をもった対象(課題)について自分なりの調べ方で追究していくのである。それをわかりやすく人に伝えることで、身近な川の素晴らしさに気付くこと、さらには広く地球環境に関する興味を深めることをねらいとしている。

具体的な単元のねらいは、次の5点となる。

川で遊ぶ楽しさや生き物への愛着を感じ取り、調べたいことを見つけることができる。	生き物の採集や飼育、電話での取材、図書などで情報を集めることができる。	生き物同士を比べたり、他の川と比べたりして共通点や相違点に気付くことができる。	実物資料や絵図、紙芝居などを使い、自分の考え方をわかりやすく伝えることができる。	生き物を川に戻したり、再び川に遊びに行ったりして、川を自分たちにとって身近な川と感じることができる。
---	-------------------------------------	---	--	--

### 効果 発見を発表し さらに考えを発展させる

当初のねらい通り、子どもが関心をもったことについて自分なりの調べ方で追究し、皆にわかりやすく伝える方法を学んでいくことができた。調べる段階では電話などで親や地域の方にインタビューをしたほか、図書館や地区センターへも実際に足を運んで情報を集めた。発表は「川探検報告会」とし、各々が新聞や紙芝居、実物の掲示、ニュース形式、ペープサート(紙人形劇)など、思い思いの形式で行った。

発表の前には、「もっと大きな字で」「メモを見ないで、相手を見て」「絵があったほうがよい」「色もあったほうがよい」など、互いのアドバイスが交流される、2時間のリハーサルの時間を設けた。その結果、自分や友達の発表をもとに、さらに調べてみたいことが見つかった。



川探検の様子

### 取組 環境について考え 自発的な行動を促す

本校では、川の学習を中心に、環境問題について、子供たちの自発的な行動を促していく「キッズISO」の視野を取り入れている。

#### ユニット1

どんな環境問題を知っているか、自分が一番心配な環境問題は何か、などについて子供たちに質問を投げかけ、意見交換を行う。

#### ユニット2

環境を少しでもよくするため、またそれを自分ごととして考えるために、自分たちでできることを生活の中から探し、具体的に自分で取組むことを、家族と学級のみんに「これから〇〇します!」と宣言する。

#### ユニット3

ユニット1～2を「実践」、「工夫」、「伝える」活動へ移る。最初の一週間は、ユニット2で宣言した内容に取組み、改善点や工夫する点を探し、更に一週間実践。最後に「誰かに伝える活動」とし、実践結果についてクラスで発表した。

### 今後 楽しみつつも問題点を発見させ 目的へ導く

本校では「川」を素材として実践しているが、個々の課題設定が大切だと考えている。「環境」はとても範囲が広く、その中で川を選んだ場合、「遊び」の要素だけが強い印象として残ってしまう場合がある。子供たちに気になる点(問題)を発見させ、ゴールを意識させつつ、各自の研究要素を見通しながら進めるようにすることが大事である。ISOの進め方は必ずしも一定ではないので、まずは選んだテーマや調べたいことを決めたあと、各々が工夫しながら取組むことを大切にしている。

子供たちは環境問題についてすでに知っていることがとても多く、また大人が思っている以上に「大人たちも大切だと思っている」ことも知っている。環境に関する事柄については目に見える結果が出にくく、変化がわかりにくいものが多いが、「やろうとしない」けれど、本当は「できること」について考えさせることを

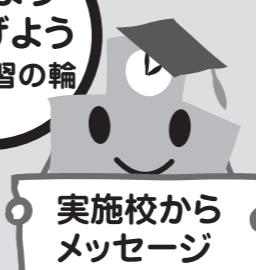
とおして、継続可能な取組を実践しながら、大人に向かう素地づくりとして大切なものを伝えていきたいと考えている。

現在この取組は4年生がメインだが、総合的な学習の時間がある3～6年生のたての系統をとらえるなどして発展させ、高学年全体のカリキュラムとしてつなげたい。



川探検「小さいエビみつけたよ!」

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

今の子供たちは、すでに環境についての知識をもっており、インターネットで簡単に情報収集する事ができます。大切なのは「自分でできることは?」という視点で考えていくこと。皆で話し合って解決の場をつくり、クラスの人と意見交換をしたり、家庭の協力で検証したりする学習は、子供たちが大人になっていく過程でも必要なことです。失敗もありますが、それも一つの経験としてとてもよいことであり、そこから反省し、工夫を重ねていくことで問題に対する解決方法を学んでいくことでしょう。以前、子どもが家庭の中で節電に取組んだ時に、テレビやビデオなどの「時刻合わせ」が必要な家電の電源も抜いてしまったため家族が困ったというエピソードもありました。しかし、その経験も、節電と実生活の中で他者とのバランスを考えられるよい機会であったのではないのでしょうか。子供たちが家庭でも実践を続けられるよう、学級通信などで知らせ、積極的に家庭の協力を得る事も大切な取組のひとつです。